

平成27年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	下呂市	学校名	下呂市立竹原中学校			
校長名	前田 芳隆	対象学年	1・2・3年	人数	105人	
活動名	前期「地域に打って出る竹原中」 後期「地域とつながる竹原中」	時間数	教育課程内15時間 教育課程外30時間以上	継続年数	1年	
題材	<b>5 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動</b> [地域貢献活動で地域とつながる] <b>3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他）</b> [盆踊り 他] <b>4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他）</b> [福祉ボランティア活動 他]					
複数年継続するための工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携して「ふるさと教育」全体計画を作成し、ねらいを明確にし9年間を見通して活動を計画的に行えるようにした</li> <li>・中学生からの一方的な働きかけにならないよう、地域の方々の意見を聞き、願いや思いを受け止めて活動が展開されるようにした。</li> <li>・活動の後には地域の方々の声をいただいて中学生が地域に貢献しているという評価の声が中学生に届くようにし、地域の人とのつながりが継続するようにした。</li> </ul>					
<p><b>1 ねらい</b></p> <p>自分たちが住む地域を知り、ふるさと竹原に対する誇りと愛着を育む。また誰もが暮らしやすいまちづくりに主体的に関わっていくことができる力を身に付けさせ、竹原の将来の担い手を育てる。</p> <p><b>2 活動の概要</b></p> <p>学校の中だけに留まらず「地域に打って出る」を生徒会が方針の一つとして打ち出した。地域の方から中学生に対する願いを聞いたところから、自分たちでできることを計画し実践した。地域の方々がそれを受けて動きだし、関わりのある発展的な動きが生まれてきた。さらに地域の方々と地域のこれからについて語る座談会をもち、自分たちでできそうな活動を考えた。</p> <p><b>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</b></p> <p>① 地区別生徒集会に区長・地域の方を招いて、中学生に期待されることを聞き、自分たちでできることを地区ごとに考えた。 自分たちで考えたことを、夏休みに実践し地域貢献できた。</p> <p>③ 交通マナーについて地域の方からいただいた指摘を受け、生徒会が「交通マナーアップ宣言」をして実践した。その様子について地域の方々（竹原っ子会議）に評価していただいた。</p> <p>④ 生徒会公共委員会が福祉ボランティア活動への参加を呼びかけて行った。昨年より多くの生徒が自発的に参加し、礼状を出し、お便りをもらってお年寄りや地域の方々とのつながりを深めた。</p> <p>⑤ 地域行事にもっと参加したいという中学生の思いを受け、中学生が計画した活動の発展として、「盆踊り練習会」の動きが地域で生みだされた。</p> <p>⑥ 地域ともっとつながりたいという中学生の思いを受け、防災訓練時に独居のお年寄り宅を中学生が訪問して安否確認をするという活躍の場を、地域で生みだされた。</p> <p>⑦ 後期生徒会では、生活委員が登校時に通学路であいさつ運動を始めた。また、小学校に出向いてのあいさつ運動も継続している。</p> <p>⑧ 地域への道徳授業の公開の後、中3が地域の方々（竹原っ子会議40人）と座談会をもった。「語り合おう！より住みよい『ふるさと・竹原』を」をテーマに、5グループに別れて熱心に語り合った。</p> <p><b>4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）</b></p> <p>○地域の方々の思いを知り、ふるさと竹原に対する誇りと愛着が強くなって、一緒になってこれからの竹原を考えることができるようになった。</p> <p>○地域の方々の中学生に対する願いを受け、地域に貢献できそうなことを考え、誰もが暮らしやすいまちづくりに向け実践する力が高まった。</p>						